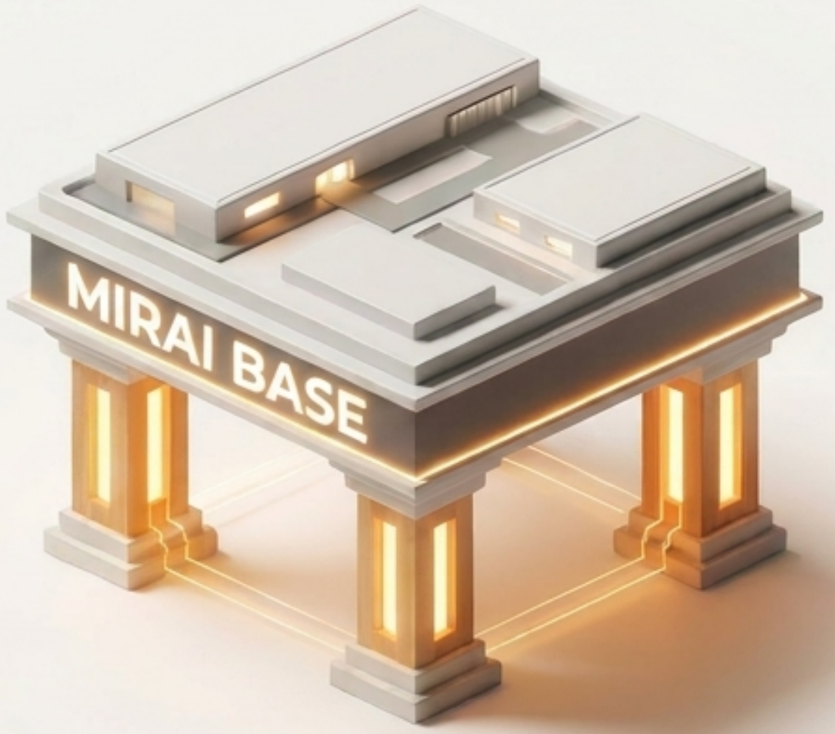
相談にたどり着けない人のための、地域の入口。MIRAI BASE 事業構想

AI収益を活用した、
持続可能な「第三の場所」の創出

NotebookLM

制度の隙間を埋める「第三の場所」



Pillar 1: 対象を問わない

障がい種別、年齢、立場（本人・家族・支援者）を一切問わず、すべての人々を受け入れる開かれた拠点。

Pillar 2: 相談前の孤立を防ぐ

既存の医療・行政・福祉制度から漏れ落ちる「重症化する前」の段階でアクセスできる地域の防波堤。

Pillar 3: 持続可能な独自財源

公的補助金だけに依存せず、AI事業収益を原資としてエコシステムを回す次世代のソーシャルビジネス。

NotebookLM

いわき市に眠る、圧倒的な「潜在ニーズ」

5,835人

顕在層（見えている世界）

制度につながっている精神・知的障がい手帳所持者
(令和6年4月時点)。既存の支援が届いている範囲。

約2.7万～3.2万人

潜在ニーズ（水面下の課題）

心理相談や居場所支援を必要としているが、
制度にはつながっていない層。

62,200人超

広義の潜在層

ひきこもり、生活困窮、家族の介護・子育ての孤立など、
可視化されていないあらゆる困りごとを抱える層。

NotebookLM

「相談前の孤立」という水面下の危機

水面上（可視化された層）

制度につながっている人 / 手帳所持者 / 行政窓口にたどり着けた人

1. 相談先のわかりにくさ (17.7%)

「どこに相談すればよいかわからない」という情報の壁。制度が存在しても、地域の入口がない。

2. 経済的障壁 (22.8%)

経済的な悩みを抱える困窮層にとって、既存の有料民間相談はハードルが高く、アクセスが不可能。

3. 家族の抱え込み

本人だけでなく、家族や支援者自身が相談先を見つけられず、地域の中で孤立し疲弊していく連鎖。

NotebookLM

なぜ新しい「地域の入口」が必要なのか

比較項目	既存の公的制度	有料の民間相談	**MIRAI BASE（本構想）**
アクセスのタイミング	制度該当後（手帳取得後など）	いつでも可能	**制度につながる前（事前）**
利用者の費用負担	原則無料（一部自己負担）	高額（数千〜数万円/回）	**完全無料**
対象者の限定性	障がい種別・年齢の条件あり	資金がある人に限定	**一切不問（家族・支援者も可）**
「居場所」としての機能	窓口業務中心・滞在不可	面談時間のみ	**いつでも立ち寄れる「第三の場所」**

NotebookLM

重症化する前に、誰もが立ち寄れる「やすらぎの場所」

地域の防波堤としての役割

MIRAI BASEは、特定の制度や対象に限定される場所ではありません。
人が倒れてしまう前に、誰の手も借りられなくなる前に、大人から子どもまで安心して
話せる「つながりと生活再建の入口」として機能します。

NotebookLM

回復を促す「家庭的かつ開放的」な空間設計

高台の立地（平上荒川）

眺望、採光、通風に優れた環境。都市の喧騒から少し離れた高台の陽光が、利用者の心理的安定とリカバリーを強力に後押しします。

ゆとりある一戸建て（195.94㎡）

無機質な行政窓口ではなく、4SLDKの広々とした「家庭的な空間」。誰もが緊張を解いて過ごせる「第三の場所」としての機能を提供します。

広い庭と開放感

公的な施設では提供しにくい、自然と触れ合える開放的なスペース。閉塞感を取り除き、自由な地域参加の第一歩を支えます。

NotebookLM

補助金に依存しない、次世代のソーシャル運営モデル

AI事業収益

持続可能な運営の主原資。国や公的補助金への過度な依存から脱却し、柔軟で自立した拠点運営を可能にする革新的なアプローチ。

MIRAI BASE運営

- 完全無料の相談枠の提供
- 居場所の維持管理
- ピア活動と広報の展開

初期・補助的支援

クラウドファンディング / 地域企業からの寄付 / 専門職の協力ネットワーク
（※初期整備や地域との共創フェーズで活用）

NotebookLM

MIRAI BASE 実装ロードマップ（構想から地域実装へ）

Step 1: 信頼構築期（1年目）

無料ピア活動の定着（拠点：いわき市 内郷公民館）

- 毎週土曜日に無料の当事者会・家族会を開催
- 「同じ経験を持つ人との出会い」を通じた心理的安全性の確保
- 当事者経験を持つメンバーへのピアサポーター育成と配置（傾聴スキルの担保）

Step 2: 地域実装期（2年目以降）

常設拠点 MIRAI BASEの稼働（拠点：平上荒川 一戸建て）

- 相談、居場所、家族支援、生活再建支援の一体化展開
- いつでも立ち寄れる「第三の場所」の常設化
- 医療、福祉、教育、地域コミュニティとの本格的な連携ハブとしての機能

NotebookLM

小さな声を、地域全体の「制度改善」へ

2 MIRAI BASEでの記録・分析

個人の問題に見える事象から「地域全体で改善すべき構造的課題（制度の隙間）」を抽出・整理する。

3 行政・地域団体への提言

行政、医療・福祉、教育、居住支援団体に対し、現場のリアルなデータに基づく制度改善のアプローチを行う。

1 現場の個人の声

賃貸審査の壁、緊急連絡先の不足、学校・職場での孤立など、水面下の「SOS」を直接受け取る。

4 社会構造の改善（地域共生社会）

制度がアップデートされ、より多くの潜在的な困窮者が救われる仕組みがいわき市に根付く。

NotebookLM

推進体制：当事者目線と専門性の融合

代表：泉田 公世（みらい相談室 代表）

専門性

ソーシャルワーカー・カウンセラー。行政や支援機関との確かなな接続実績。福島県ピアサポート養成研修ファシリテーター、いわき市地域自立支援協議会副部会長歴任。

当事者経験

うつ病のサバイバー。自らが制度の隙間で苦しんだ経験を持つからこそ、上から目線の支援ではなく、利用者の「横に座る」ピアサポートを設計できる。

圧倒的な共感力と実践的解決力

NotebookLM

誰もが孤立しない「地域共生社会」の実現へ

私たちは単に「相談室」を作るのではありません。
いわき市から孤立をなくすための、新しい「地域のインフラ」を創ります。
この持続可能なエコシステムの構築へ、皆様の参画と協働をお待ちしています。

みらい相談室
Email：mirai197604@gmail.com
公式HP：https://mirai-sodan.com
TEL：0246-88-7369

NotebookLM